

2004, 7, 22 (木)

(第3種郵便物認可)

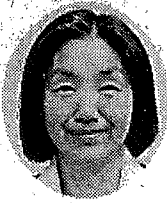
県環境アドバイザーからの提言

今として 未来

以前より少し時間の余裕ができたので、中断していた生ごみからのぼかし堆肥作りを始めた。ぼかしは沼田の福祉作業所できり、市の生活課で半額補助の百円で売っているもの。容器も市の生活課で扱っている。十七年前に地域の生活学校でリサイクルの活動を始めたが、沼田市は一九九七年に指定袋を導入して分別収集の徹底を図り、前年比で四割のごみの減量化を実現した。今年四月から始めた指定プラスチック、金属、乾電池を含め紙類(新聞紙、段ボール、雑誌、紙パック)、ビン類(生きびん、二升瓶、ビール瓶、トライアングル瓶)、透明、

経済優先の考えを変える

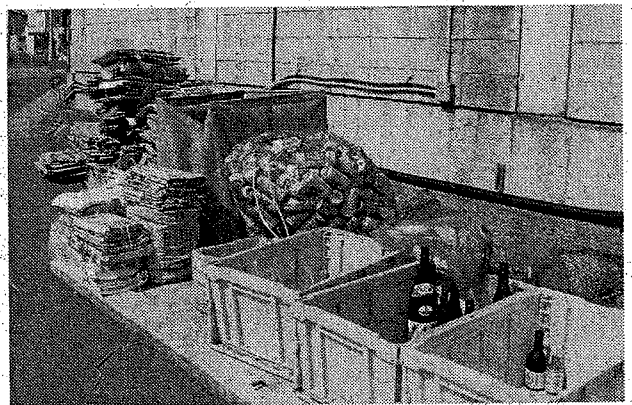
暮らしの中の環境問題



【まじも・よしこ】

茶、その他)、ペットボトル、缶、白色トレイの十四種類の分別収集になった。三十年ほど前、有吉和子さんの新聞連載小説「複合汚染」が話題を呼んだ。農業やさまざまな化学物質が複合した影響について大きな不安があることを訴えている内容は、出産育児期の私にはショックだった。

実際に当事、母乳からPCBやダイオキシンが検出されたり、アレルギーなど深刻な問題を抱えている人たちも増えていた。自分もできることとして、添加物を使わない安全な



沼田市の資源ごみ。月2回14種類に分別される

【まじも・よしこ】
さいし生活学校副代表。九二―二〇〇三年まで沼田市議。(仮称)利根沼田地域ボランティアセンター準備会発起人。
九二年六月にブラジルで地球サミットが開かれ、環境を大切に
する行動計画をそれぞ
れの国で作っていくこ
とが確認された。その
後、さまざまな法律が

制定され、新聞、雑誌、テレビなどで環境に関する情報は数多く流されてきているわりには、効果が目に見えて上がっているようには思えない。
アレルギーや化学物質過敏症の人が増え、微量でも大きな影響を与える環境ホルモンの問題が新たに指摘されるように、環境破壊も進み、問題はより深刻になっている。まだまだ経済優先の考え方が幅を利かせているような気がする。これを変えていくためには、地道な実践とネットワークを広げていくこと、そしてそれを政治に反映させていくことではないかと考えている。

(真下 淑恵)